

## 1月の虹プログラム

**1月7日(木) 楽しい東洋医学【有料】 定員 10名 (抽選)**

**15:00~16:00 講師:尾上 史晃 応募期間 12月18日~12月25日**

**1月14日(木) 虹ホビー 『干支の切り絵作り』**

**一部 13:30~14:30 講師:田中【有料】 定員各10名 (抽選)**

**二部 15:00~16:00 応募期間 12月25日~1月8日**



**1月21日(木) 虹サロン『お正月おたのしみ会 企画中』**

**一部 13:30~14:30 定員各10名**

**二部 15:00~16:00 (抽選) 応募期間 1月5日~1月16日**

**(無料)**

**1月28日(木) 虹トシ【有料】 定員各12名 (抽選)**

**一部 13:30~14:30 講師:栗山 和之**

**二部 15:00~16:00 応募期間 1月5日~15日**

### つぶやき

「相撲のしきたり」

橘 紀衣 (たちばな きえ)

年の初めにはやはり相撲を見るという方もあるでしょう。相撲の起源は古く「古事記」や「日本書紀」にも記述がみられます。若い人にはなかなか受け入れられないスポーツですが、これを日本の歴史や神事に沿ってみることで、また新しい見方が生まれます。土俵は四角い形に土が盛り上げられていて、その内側が勝負俵で円形になっています。これは「天円地方」と言って、天の円形は「陽」を表し、地は四角で「陰」を表しているのです、これだけでも陰陽道が基盤にあることがわかります。私が子供の頃には「四本柱」といって土俵の四方に柱が立っていて、東、南、西、北にそれぞれ青(緑)赤、白、黒の布が巻かれていました。この4つの色は五行説にある方位の守護神の4匹の聖獣を表す色で、東は青龍神、南は朱雀神、西は白虎神、北は玄武神が守護していて、中央の土俵は土の色で黄に対応しています。当時はこの柱は邪魔だなと思っていたのですが、ある時(1953年)から柱がなくなり、その代わりに吊り屋根からその色を表す房を下げることになりました。相撲には神事の側面もあるとお話しましたが、昔は相撲の勝敗でその年の五穀豊穡や天下の事象を占ったそうです。横綱が体に綱を張るのはその綱に神を宿す神聖な場となるからです。「四股を踏む」というのは土地の邪気を払い、土を踏み固めて土地を清める意味を持ちます。これは歌舞伎や日本舞踊で足を踏む所作があるのと同じで、五穀豊穡に寄与しているのです。こう考えると相撲が単なるスポーツではなく、国技であり神事だということが明らかです。信仰や古典芸能と大きく関わっているわけで、力士の方にはしっかりそれを頭に入れて頂きたいと思うのです。

以上